

経営者への活きた言葉

税理士法人 優和

TEL 03-3455-6666
FAX 03-3455-7777

経営者への活きた言葉

人工知能ブームを迎え、新しい変化とチャンス 柳川 範之（東京大学大学院教授）

1. いつの間にか、世の中すっかり AI（人工知能）ブームである。その影響はまだ不確実な部分が多いし、どこまで革新的な変化が生じるかについては専門家によって意見が分かれている。しかし、およそ意見の一致を見ているのは変化が急速だろうという点だ。
2. 変化への対応という点、多くの方がすぐに思い浮かべるのは、経営者への迅速な意思決定という側面だろう。確かに、技術革新や外的な環境変化に適切に対応して経営戦略を変化させていくのは、企業経営者にとってとても重要なことだ。今後は、今まで以上に速くなる環境変化に会社の戦略をいかに合わせていくのが重要な課題になってくるに違いない。
3. 自分の身に付けた能力やスキルでずっと働きたいと考える人は多いし、働き続けられたほうが安定感もある。しかし、変化の激しい時代はそれを難しくしている。新しい環境に必要とされる能力をいくつになっても身に付けられるようにしないと、激しい環境変化の中で働き続けることは難しい。これは決して容易なことではない。無理だと考える人も多いだろう。しかし、それができなければ、多くの方が活躍できる社会の実現は難しい。
4. これは、これから全世界が直面していく共通の課題だ。したがって、これを変化において新しい機会を得るチャンスととらえ、そんな能力を身に付ける機会を作り出す必要がある。

（参考：「週刊東洋経済」2016年6月18日号）

ワンポイント経営アドバイス

企業との連携を積極的に進める

塩崎 均（近畿大学学長）

1. マグロの養殖事業で大手商社と組むなど、企業との連携は研究と社会がつながるといふ一番分かりやすい事例になります。私が学長になってすぐ、大阪府東大阪市の中小企業の社長に集まってもらって、「我々はこんな研究をやっています。一緒にやりませんか」と呼びかけました。これは東京都大田区でも年 2 回やっています。我々の方から出かけて行って声を掛けつつ、企業の方たちにも気軽に相談に来てもらえるよう、学内のカフェを開放しています。
2. マグロの飲食店では学生が、何学部の何年生と書いた名札を着けてアルバイトをしています。実際に自分たちの取り組みがどういう形でビジネスに使われているのか学ぶよい機会です。店の食器は文芸学部の学生たちが作ったもの。そうやって学生を巻き込むことでモチベーションの向上につながっています。

（参考：「日経ビジネス」2016年6月6日号）

経営者のための理念・哲学

悟りとは迷いの中から生まれる

伊與田 覺（論語普及会学監）

1. 孔子という人、生まれながらに聖人のような人というふうにも思われる方もありませんが、本人は随分迷いながら人生を歩んだようです。「四十にして惑わず」という言葉からもうかがえますが、特に三十代までは迷いに迷っていたのでしょう。「論語」の中で、孔子が自分のことを本当に語っているのはここです。悟りというのは迷いのあるところから生まれるものであり、迷いを持つ人に対して初めて悟ることができるのです。
2. 孔子という人は、心の鏡に自分を映して絶えず自分を省みた人でした。「朝に道を聞けば夕に死すとも可なり」と、真実の道に向かって敢然と立ち向かっていく。自己反省を怠ることなく、自らを改めていく努力を怠らなかつた人であるからこそ、その教えは二千五百年経った今日も多くのの人々を感化し続けているのです。

（参考：「致知」2016年7月号）

古典に学ぶ

義理とは義務

（解説）それはギリ（義理）のことで、これは文字通りには正しい道理だが、やがては世論が遂行を期待している、ぼんやりした義務感を意味するようになった。その元の純粋な意味では、義理は純粋単純な義務を意味していた。それゆえ私たちは両親に、目上の人たちに、目下の人たちに、また社会全般等々にたいし義理を負うというのである。

（参考：佐藤全弘訳新渡戸稲造著「武士道」：教文館）